

乙 第 号

中西 昭登 学位請求論文

審 查 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

報告番号	乙第	号	氏名	中西 昭登
論文審査担当者	委員長		教授	浅田 秀夫
	委員		教授	城戸 顕
	委員		教授	田中 康仁
	(指導教員)			

主論文

Predictors of Proximal Interphalangeal Joint Flexion Contracture
After Homodigital Island Flap

(和訳)

指尖部切断に対する指動脈島状皮弁をもちいた再建術後の PIP 関節屈曲拘縮の
予見因子の検討

Akito Nakanishi, Shohei Omokawa, Akio Iida, Daisuke Kaji, Yasuhito Tanaka

Journal of hand surgery American
40 卷 2155-9 頁、
2015 年 11 月 発行

論文審査の要旨

指尖部切断に対する指動脈島状皮弁をもちいた再建術後に、PIP 関節屈曲拘縮が起こることはよく知られているが、その要因を明確にしたものはない。申請者は臨床例を前向きに調査し、指動脈島状皮弁をもちいた再建術後の PIP 関節屈曲拘縮の予見因子を明らかにした。

2006～2013 年に術式を統一して申請者自身が手術を行った 44 指 39 症例を調査した。屈曲拘縮の原因となりうる 5 つの因子（年齢、受傷指、受傷機序、皮弁前進距離、創部治癒期間）と術後 1 年以上経過した時点での PIP 関節伸展角度との関係について、単回帰分析と多重回帰分析をもちいて検討した。

最終伸展角度は平均 -16 度であり、単回帰分析で年齢、受傷指、創部治癒期間に有意差が認められた。しかし皮弁前進距離には有意差が認められなかった。多重回帰分析では年齢、創部治癒期間が独立因子として示された。高齢患者と創部治癒期間が延長する症例で PIP 関節屈曲拘縮の発生する危険性が高いことが明らかとなった。

以上より、指動脈島状皮弁の術後に合併する PIP 屈曲拘縮の危険因子が明らかになり、それらの因子を持つ症例ではより積極的な拘縮予防の介入が必要であることが分かった。手の外科学ならびにリハビリテーション医学のさらなる発展に寄与するものと評価され、博士（医学）の学位に値すると考える。

参 考 論 文

1. 橈骨頭偽関節に逆向性骨付き外側上腕皮弁を応用した1例.
中西昭登, 川西弘一, 鍛冶大祐.
日本マイクロサージャリー学会誌. 2015; 28(4): 199-202.
2. Post-traumatic osteonecrosis of the lunate after fracture of the radius.
Nakanishi A, Yajima H, Kisanuki O.
J Plast Surg Hand Surg. 2014; 48(6): 434-6.
3. Conservative treatment of the isolated dislocation of the pisiform bone.
Saleh WR, Yajima H, Nakanishi A.
J Plast Surg Hand Surg. 2014; 48(4): 283-4.
4. 母指CM関節症に対する内固定材料を用いた関節固定術.
中西昭登, 矢島弘嗣.
整形外科最小侵襲ジャーナル. 2013; 67: 71-78.
5. 四肢軟部組織欠損に対する腓骨動脈穿通枝皮弁の検討.
中西昭登, 矢島弘嗣, 木佐貫修.
日本マイクロサージャリー学会誌. 2010; 23(3): 245-249.
6. 指基節骨基部剥離骨折に対するA1 pulley切開掌側進入法を用いた治療経験.
中西昭登, 矢島弘嗣, 木佐貫修, 吉田淳.
日本手の外科学会雑誌. 2010; 26(4): 279-281.
7. 指趾軟部組織欠損に対する腓骨動脈穿通枝皮弁の検討.
中西昭登, 矢島弘嗣, 木佐貫修, 村田景一, 河村健二.
日本手の外科学会雑誌. 2009; 25(4): 441-443.
8. Acute carpal tunnel syndrome secondary to calcific tendinitis: case report.
Saleh WR, Yajima H, Nakanishi A.
Hand Surg. 2008; 13(3): 197-200.
9. ヒートプレス損傷に対する治療経験.
中西昭登, 矢島弘嗣, 小島康宣, 村田景一.
日本手外科学会雑誌. 2008; 24(6): 1196-1199.
10. 観血的治療を要したHunter管症候群の2例3膝の検討.

中西昭登, 植田康夫, 山田素久, 水島正樹.
整形外科. 2004; 57(2): 194-196.

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに整形外科学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

平成 28 年 6 月 14 日

学位審査委員長

皮膚病態医学

教 授 浅田 秀夫

学位審査委員

運動器再建医学

教 授 城戸 顕

学位審査委員（指導教員）

運動器再建医学

教 授 田中 康仁